

中村俊定文庫  
文庫 18  
714





位濃國傳りてな歌姨於やうり  
 傳り岩乃めやうり所は去来う碑と  
 ものし好ま各仇語の神な招き  
 け受りて在りての車指とよくばり  
 常は岡公守りての癖あやも必おの  
 雲あに在りての物しつてくたすに



古為姨不入發句に因縁と云ふ  
 彼日のなごも物一休を云はし  
 う早ねお端すゝゝあるこも目に  
 空沼とせくゝゆのゝ田ふゝ  
 鳴ゝゝ雲門禪師の撰書州和尚の  
 茶味にふゝあゝたのた

桃青院  
 重厚子

叙

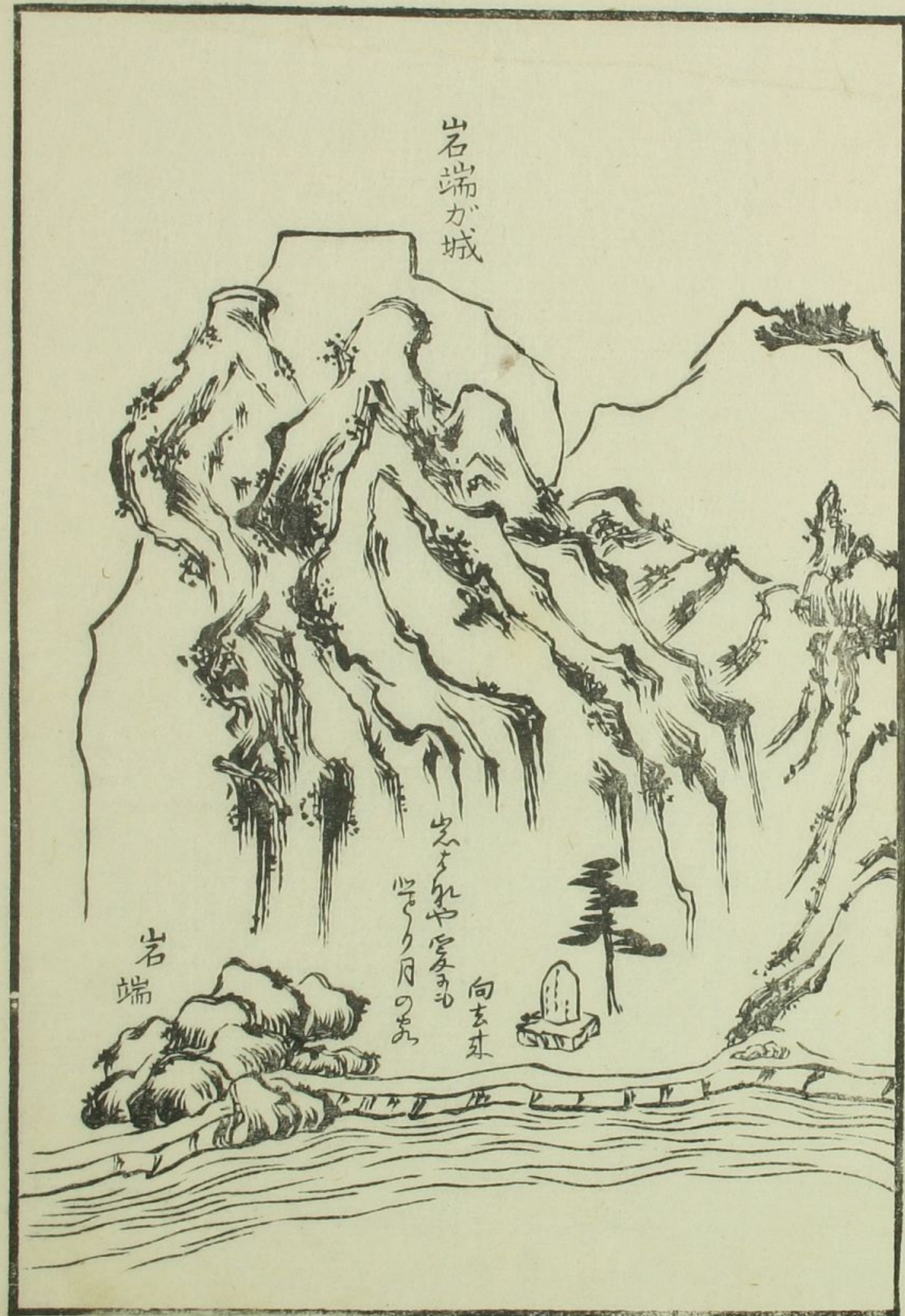
匠の所三奇良事を五言の句ありて  
 午に奉甲行も何脚のたむを推  
 十日餘の地を遊し齋をぬるゝ  
 之く所の選淨を指し心縣都  
 少くぬの地を御河建むるを謀  
 余日天ゆゝ地をた入念をた  
 通し先皇名地得決に後を定む  
 諸の折きと様をゆゝし專格を  
 ちよれをゆゝ山谷河寺に優を

終に十曲の各所流雪域望の中一石  
所指しぬるまの入り力を得るは美流の  
同よりまゝあつた

國のあつたゆゑに流雪域望の中一石  
主としてあつたゆゑに流雪域望の中一石  
様はあつたゆゑに流雪域望の中一石  
よりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石

一巻の陣歌のあつたゆゑに流雪域望の中一石  
社交も一巻の陣歌のあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石  
はりのあつたゆゑに流雪域望の中一石

一巻の陣歌のあつたゆゑに流雪域望の中一石



山名端が城

岩端

岩よりやまの  
心より月の光  
向去来

四



小屋場が城

高松軒圖  
□  
□

天狗岩

夫婦坂

下塩尻

北陸道

十冊三六

碑裏

去來塚之碑

峨阜之落林窈魯有巖端月客之吟蕉翁深美之  
世人博傳之矣惟茲信州小縣郡鹽尻巖端之地  
與更級郡相鄰也蓋林窈常為觀月過此地仍景  
而發興者歟他雖有此名亦不妨焉矣此地也上  
負古城崑巒百丈下臨大川滄波萬頃有田圃也  
有村落也富於攀躋矣瞻於眺望矣騷士一視之  
不能無吟懷然則林窈之吟於此必然者也方今  
寬政十一年己未春三月詠諸鹽尻之風士以勒

碑乎路傍石上青雲福氏者傾心而介之明齋履  
氏者竭力以務之曉雲履氏者亦汲<sub>二</sub>勤乎此且  
衆力之所致不日成之因作其銘曰

嶺峯崑端 西鄰更科 高厓屈曲 大路陂陀

摩眼羣嶺 滌腸長河 飄<sub>二</sub>俳窈 曩在嵯峨

隴彼月秋 旅況其何 崑端佇立 相客即歌

維吟維境 昏得維多 豈斯雅事 復曰之他

謀衆修碣 爰建岩阿 福氏盡心 履氏擇枕

雨霜攸曝 日月攸過 隱然之石 不騫不叱

武州蒼梅小菴菴支元謨并書



可憐  
 夜有  
 世の夢  
 止齋  
 以良  
 南川  
 長  
 夕  
 吹

可憐  
 夜有  
 世の夢  
 止齋  
 以良  
 南川  
 長  
 夕  
 吹

日向山向各書  
 信岩路社中



山崎のてらにまはるるてらにまはるる

晴十

花のまはるるてらにまはるる  
 月のまはるるてらにまはるる  
 夕のまはるるてらにまはるる  
 雨のまはるるてらにまはるる  
 花のまはるるてらにまはるる  
 月のまはるるてらにまはるる  
 夕のまはるるてらにまはるる  
 雨のまはるるてらにまはるる

雨 荷 夜 杜 止 乍 臥 鼎 祖  
 廿 流 有 刺 齋 丈 心 士 夕

花のまはるるてらにまはるる  
 月のまはるるてらにまはるる  
 夕のまはるるてらにまはるる  
 雨のまはるるてらにまはるる  
 花のまはるるてらにまはるる  
 月のまはるるてらにまはるる  
 夕のまはるるてらにまはるる  
 雨のまはるるてらにまはるる

以 林 雲 可 南 莫 杉 杉 丁 御  
 良 半 浦 梁 川 戸 雪 長 佐 心









少くも此の 碣石 廿九 少くも此の 許棠  
 少くも此の 下 爾和 少くも此の 雪生  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 進馬  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 依車  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 百何  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 和神女  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 柳堂女  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 桂花女  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 大女  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 李東

十三

少くも此の 少くも此の 少くも此の 未衣  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 少也  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 乞就

小川社中

秋の少くも此の 少くも此の 少くも此の 燕芝  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 其釣  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 為梁  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 水接  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 山鳥  
 少くも此の 少くも此の 少くも此の 如雪







こころも 友をよむ 乃わりの 目か  
 早乙女乃小掃 花はよ 木はた 角  
 様も 心を かりて 毎も 白く 跡  
 跡の 跡く 園き けりて 木は 田種 花  
 花は けりて 餅も せりて 木は 田種 花  
 乃わく 乃わく 生は 花の 花の 花  
 乃わく 乃わく 種も 入や 花の 花  
 父の 文植 花 花 川 花の 花  
 花の 花の 花の 花の 花の 花の 花  
 花の 花の 花の 花の 花の 花の 花

善友  
 雨柳女  
 雙子  
 如悠  
 之雅  
 悠之  
 西崎  
 一壺  
 破笠  
 和友

乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく  
 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく 乃わく

一学  
 返船  
 長女  
 植菊  
 文下  
 葉通  
 和衣  
 文魚  
 大府  
 押井  
 葉通

岸乃中山野ありて一ありま理 岸品  
梅のさくら一岡もあふれわらわら 切木 船舟  
はせ一松もさくらのかげ月之影 一葉  
縁のさくら一つとてさくらくつ菊 止好  
夢の秋七切もあふれ雪の影 綱金 宝物  
梅のさくら一母一ニ口は松の形 壺希  
あふ梅のさくらあふれは松の影 白珠  
細き松のさくらあふれは松の影 雄之  
川あふれは松の影 富山  
素川

ありて一松の影あふれは松の影 文我  
あふの影一松の影あふれは松の影 上平 四候  
あふの影一松の影あふれは松の影 久貫  
少の影一松の影あふれは松の影 權馬  
院の影一松の影あふれは松の影 白太  
あふの影一松の影あふれは松の影 戸念 屋白  
あふの影一松の影あふれは松の影 中村 一  
あふの影一松の影あふれは松の影 矢代 志  
あふの影一松の影あふれは松の影 善見 五什  
あふの影一松の影あふれは松の影 文北

名やうに神之くゆりあり

飯山 酒

けしきふに家と成あやふれ

山崎 家

やうのまをまへてしり

山崎 甚之

ふりあけをあらはれ

山崎 甚之

くさしきふとくすのふ

山崎 甚之

いふ一がれ酒のふり

山崎 甚之

ふきふり入相の鐘のむ

山崎 甚之

まらふのふりしり

山崎 甚之

をうのふりしり

山崎 甚之

きふりしり

山崎 甚之

十府の枝はふりしり

山崎 甚之

きふりしり

山崎 甚之

十府の枝はふりしり

山崎 甚之

むらふのふりしり

山崎 甚之

をうのふりしり

山崎 甚之

きふりしり

山崎 甚之

十府の枝はふりしり

山崎 甚之

きふりしり

山崎 甚之

十府の枝はふりしり

山崎 甚之

あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ

桂花

下種

文讀

鯉光

雲之

菊

若

水

丘

山

月をてはゆきしり  
野々花の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ  
あはれはゆきを時り輝ききり  
くまきや雪の静けさ

と染

津丸

松

家

割

可

世

白

珠

江

晴けりきつらのの橋のりくつる也  
 秋のきつら 推ゆの橋に渡る也  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら

新所 秋行 守孝 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら

碓氷峠

月影和 舟をさる 波の海流し 如雪

新所 碓氷 乃 月影和 海流し 如雪

上毛

稻つり此字 乃 月影和 海流し 如雪  
 白蓮つり 乃 月影和 海流し 如雪  
 野つり 乃 月影和 海流し 如雪  
 人つり 乃 月影和 海流し 如雪  
 ちつり 乃 月影和 海流し 如雪  
 らつり 乃 月影和 海流し 如雪  
 白の雲 乃 月影和 海流し 如雪  
 ちつり 乃 月影和 海流し 如雪

新所 秋行 守孝 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら  
 秋のきつら 秋のきつら 秋のきつら

蟻

早ら

蟻

入る

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

金二十

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

蟻の巣に 蟻の巣に

蟻

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

高松の山々  
 湖千景  
 葉子  
 松百重  
 入相  
 以酒乃  
 喜  
 一

いほのきりやうらな中なる乃夢 是牛  
ふらふらとく木履のそおを思ふ武 森下 沙草  
あ飛——花廿七種むゆの折け所 五白  
なまのこころいふふふふふふふふ 白井 白扇  
誰れをうらむのふらふらふらふら 冬後  
ふらふら花もあふりの折け所を 十二  
いふふらふらふらふらふらふら 雄船  
ふらふら——草のたききぬふらの息 一峰  
柳のふらふらふらふらふらふら 菊文  
長よふらふらふらふらふらふら 五世月 木下 無然

誰れをうらむの折け所を 中川  
いふふらふらふらふらふらふら 木下 白  
ふらふらふらふらふらふらふら 山崎  
ふらふらふらふらふらふらふら 桑佐  
ふらふらふらふらふらふらふら 吳水  
雪折れ花ぬらふらふらふらふら 木下 白  
武  
柿のふらふらふらふらふらふら 木下 白  
結乃轉りふらふらふらふら 悠々



新衣乃母おーいりし緒相撲 京都 曲肱  
 花の山流るるー人し押あふん 全 寺宇  
 榮ありるな一しきそ蘇一志乃山 東川  
 然はあーいささいあさきい夢 全 法見  
 夕月や一雪き海の晴の岸 全 白藤  
 陽あや一い菊の種まく一ふゆの舟 花六  
 一あひかり御あそび 全 多宜  
 一あつらふ心持えまねるあつらふ 全 甘花女  
 下産あふふあしあつらふ 全 よし女  
 舟橋あ片山流るる車より船 佛足尼

市中あ一極あ一し夕遊のあ 全 杜春  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 仙言  
 取女乃重井あ 全 頼希  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 玉波  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 法波  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 呉秋  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 許景  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 轍之  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 碩希  
 一あつらふ心持えまねるあ 全 兎明







虹幡はくくを西白く 打ちをたり 自徳  
 去るもやいれれもたうこたのこ 素癖  
 福あきさりのや日あせりふまきり 柳庄  
 掃くも甘海の塵をまきしき 猿丸  
 りもくまきりあるる免ぐれ命根 上毛小  
 足もれやりの浮も 月の友 兼続  
 ハウもを瓢き ちんちんも 武雄谷  
 学も人いふ ちんちん 月樵  
 けしきいふ ちんちん 周の雁 半子  
 名もいふ 田もいふ ちんちん 長安  
 巢北

みるもやまのりも 枯屋をれ 高友  
 うも月やまのりも ちんちん 在様  
 利根の御子まのりも 筆やまのり 帰重  
 市もいふも ちんちん 似たりまのり 成美  
 満月の友のりも ちんちん 相大磁  
 峰のちんちんも ちんちん 名やまのり 信智  
 人もいふも ちんちん 柳あつ小田 甲高田  
 いもいふも ちんちん ちんちん 可教屋  
 月おれ 述懐のりも  
 新のちんちんも ちんちん 川田  
 高水

結や本も初たり 四十年 府 野奴  
 霧や古名出たまふ 秋の味 奥仙 白居  
 雷の勢をさへりく 料乃月 律大  
 うぐはる満月うま 踏山形 白乙 乙二  
 人の扇ゆるし 思よおもひく 元 冥く  
 花を飾り 牛の鼻ぬり 秋 秋夫  
 けしこのはに早のりけや 南 彦貴  
 花中 一ひの長き 柳 のぬ 平角  
 みし柳 くるた 居 居 一州  
 花のぬり 白 ぬり 居 居 素御

雪のぬり 白 ぬり 居 居 五頁 羽秋田  
 霧のぬり 白 ぬり 居 居 五明  
 霧のぬり 白 ぬり 居 居 白雲 越  
 月影 一 念深 一 蟻 一 狭雅 壺仙  
 健 一 らぬ 行者 終ぬ 一 峰乃 青河  
 雪 一 け 一 らぬ 行者 終ぬ 一 峰乃 牧之  
 月 一 を 載 一 ぎ 嶺 一 の 低 一 さ 一 り 菊 竹花  
 柳 一 を 建 一 け 一 らぬ 行者 終ぬ 一 峰乃 几丈  
 雪 一 を 載 一 ぎ 嶺 一 の 低 一 さ 一 り 菊 和雨  
 丁 一 を 載 一 ぎ 嶺 一 の 低 一 さ 一 り 菊 斗入 賀







けしきしにせむよれりりむこる  
けりまじりまじりまじり  
福の命ゆきまじりまじり  
月居

とほ持合

中川舟早りの逢瀬乃鳥貝 大侯

岸の白くまのまじりまじり  
義仲寺 祐昂



小舟まじりまじり

地青院

重厚

あやうし  
まじり







題巖端集之後

山風月涌曲江干  
或叟遺篇穿  
石寒為駐排門鐘  
秀卷千煉萬

古炳巖端

小叢菴支元



信明齋藏

寬政十二庚申三月出

本石町二丁目

西村源六壽梓

殿工朝倉藤八

東都書林

